

伊良部大橋の整備効果

効果1. モビリティ(移動のしやすさ)の向上

①円滑で効果的な交通の確保

伊良部島～宮古島の移動時間が短縮されるとともに、どこへでも安全かつ容易に移動することが可能となります。

②交通の随意性の確保

天候や時間帯に左右されずに、移動が可能になります。

表1 欠航回数

年度	H11	H12	H13	H14	H15
年間欠航回数	122	232	204	240	188

表2 佐良浜漁港～主要施設間の移動時間の短縮

施設名	整備前	整備後	短縮時
旧平良市役所	32分	14分	－18分
宮古空港	38分	20分	－18分



高速船
高速船(2社3隻)
所要時間:15分
始発7:13 最終19:20



カーフェリー
カーフェリー(2社2隻)
所要時間:25分
始発7:30 最終17:30

効果2. 生活環境・文化水準の向上

①医療サービスの向上

急患搬送など、島外病院への通院・搬送が短時間(18分短縮)で安全に行うことが可能となり、医療サービスが向上し、島民の不安が解消されます。

表3 年度別緊急輸送件数

年度	H11	H12	H13	H14	H15
緊急輸送件数	128	118	163	151	125

表4 病院への短縮時間

県立宮古病院	41分	23分	－18分
--------	-----	-----	------

②教育・文化水準の向上

島外の学校への通学が容易となり(現在77人の高校生が宮古島へ通学している)、下宿費用や船賃等の経済的負担が軽減されるとともに、クラブ活動等の交流機会が拡大され、教育文化水準の向上が図れます。



佐良浜診療所



市立南診療所

効果3. 交流・物流の拡大支援

①架橋により、宮古圏域が一体化され経済及び人の交流が盛んになります。

②時間短縮や、輸送コストの低減等により、効率的な移動や輸送が可能となります。

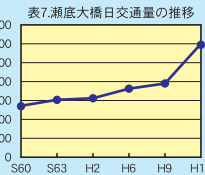


表6 完成離島架橋の交通量(平成11年度)

橋梁名	完成年度	H11人口(人)	交通量(台/日)
瀬底大橋	S 59	9 4 2	2.979
池間大橋	H 3	8 5 3	1.283
浜比嘉大橋	H 8	5 5 6	1.424

表8 離島架橋の架橋前後の年間旅客数の変化

橋梁名	架橋前	架橋後	伸び率
池間大橋	H3 43,867	H11 749,272	17倍
浜比嘉大橋	H8 21,652	H11 1,100,256	51倍

注1)架橋前は渡船による年間旅客輸送実績 注2)架橋後は日交通費×365日×1.6人/台の推測値

効果4. 地域の活性化

①下地島空港の有効活用

我が国初のパイロット訓練飛行場として昭和54年に開港。3,000m×60mの滑走路を有していることから民間の航空専門の高等学校誘致など今後の活用が期待される。

②雇用機会の創出、人口の定住化の促進

生活及び経済圏域が広がることにより地域格差がなくなります。また、下地島空港の開発や輸送コストの低減等により、基幹産業である農業と漁業が発展します。

さらに、観光産業が発展することによる新たな雇用機会が創出され、人口の減少に歯止めがかり、島全体の活性化が図られます。



下地島空港



総合交流ターミナルでいだの郷



市営ゴルフ場

効果5. 観光資源の活用

①島内の観光名所の活用と観光客数の増大

伊良部島は1310年に宮古島から移住したのが始まりだと言われ、古くから伝わる行事や祭事が今でも残っています。また豊かで美しい自然や未開発の観光資源が数多く存在することもあり、架橋によりトライアスロンコースや宮古島一周観光ルート的一端を担うことが期待されます。

さらに、観光客数の飛躍的な増大及びレンタカー(宮古島で現在551台)利用による交通量の増大が予想されます。(現在入込観光客数4万人→将来30万人(見込み))

②観光開発

観光客の大幅な増大が見込まれるため新たな観光産業や既存の施設利用が促進され、雇用が増えると予想されます。



通り池
(県の天然記念物)



佐和田の浜
(日本の渚百選)



渡口の浜
(沖縄観光名所指定)

編集・発行

平成18年3月 沖縄県宮古支庁 土木建築課 伊良部大橋建設現場事務所

〒906-0015 沖縄県宮古島市平良字久貝771-2番地 TEL: (0980) 73-9111 FAX: (0980) 73-9141